宗門総合振興計画　vol.44

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査報告（その10）
――学童集団疎開と寺院――

総合研究所内
戦時調査室

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査につきまして、今号では、「学童集団疎開」をテーマにご報告いたします。

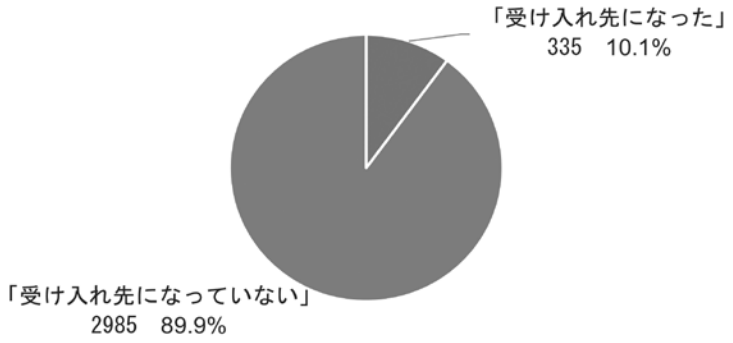
「建物疎開」についての前号で少しご報告しましたように、「学童疎開」の受け入れ先になった寺院は、全教区にわたってかなりの数にのぼりました。「学童疎開」は、「学童縁故疎開」と言われた戦時に地方の縁故先への学童の転出がまず先行して推進されました。今回の調査ではこのことについてもお伺いしましたが、今号では「集団疎開」と言われた学校あるいは学年単位の学童集団疎開を宗門寺院が受け入れたかどうかお尋ねした回答の集計結果と、ご提供いただいた資料のいくつかをご紹介させていただきます。

1、「学童集団疎開」に関する設問と回答集計

郵送調査票（問24）では、「貴寺院は、『学童疎開』の受け入れ先になりましたか」の問いかけに、「受け入れ先になった」の回答は、「図表1」のとおりです。

「受け入れ先になった」寺院の教区別回答数は、「図表2」のとおりです。

この問いに関しては、さらに次の5項目についてお尋ねして記述回答欄に記入をお願いしました。



図表1　学童疎開受け入れの有無

教区名	回答数	学校所在地（主なもの）
北海道	1	（無記入）
東　北	1	東京
東　京	6	神奈川、東京
長　野	5	東京
国　府	5	東京
新　潟	7	東京
富　山	14	東京、神奈川
高　岡	18	東京、埼玉
石　川	4	大阪
福　井	11	大阪
岐　阜	4	愛知
東　海	8	愛知
滋　賀	22	大阪
京　都	5	大阪、京都
奈　良	8	大阪、奈良
大　阪	25	大阪
和歌山	13	大阪
兵　庫	11	兵庫
山　陰	16	大阪、兵庫
四　州	7	大阪
備　後	29	広島、大阪
安　芸	32	広島
山　口	1	山口
大　分	3	大分
熊　本	14	沖縄、熊本
宮　崎	1	沖縄
鹿児島	7	鹿児島

図表２　教区別寺院回答数・寺院が受け入れた学校の都道府県別所在地
※学校所在地「無記入」を含む回答278について

a　学校名
b　教師・生徒数
c　疎開期間
d　疎開児童の世話をするなかで、一番大変だったのはなんだったと言われていますか。
e　疎開校・疎開児童とは戦後も交流がありましたか。疎開の想い出にふれた文集・パンフレットが作られていませんか。

以下では、a～eについて順に回答結果をみてみたいと思います。

a　学校名

具体的な学校名は、ここでは省略し、前掲「図表２」に学校の都道府県別所在地を記載しました。

b　教師・生徒数

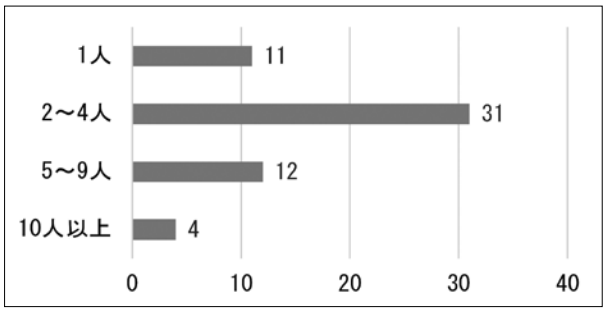
寺院が受け入れた教職員数は、「図表３」のとおりです。

この中には、「10名以上」の東京都の学校があり、「教職員12名」の回答には、具体的に「教員５名、寮母５名、用務員１名、調理員１名」の記載がありました。この学校の場合、小学生は「約70名」で、高岡教区の１か寺が１９４５年３月から

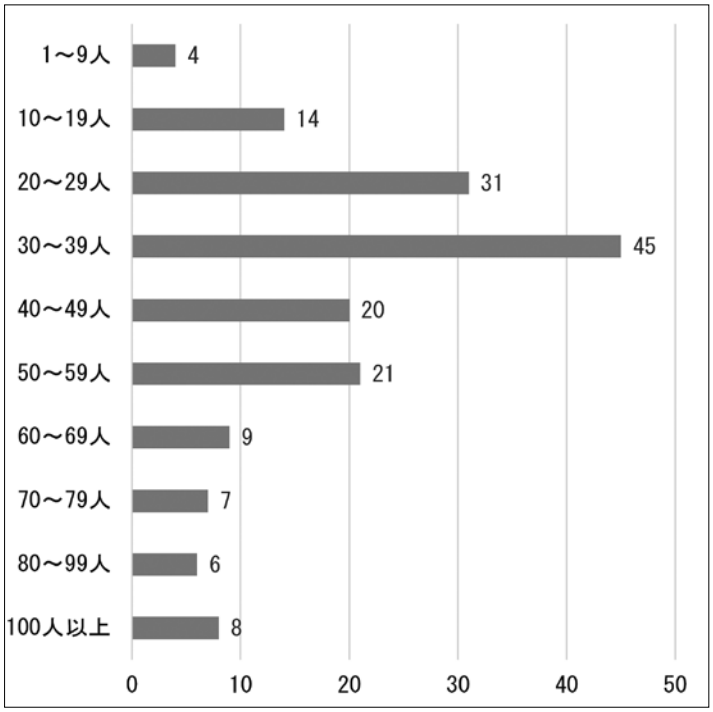
12月まで、本堂・庫裏を提供して疎開小学校を受け入れました。

「図表4」は、寺院が受け入れた児童・生徒数です。

「100人以上」など生徒数の多い回答では、1か寺ではなく近在の複数寺院で受け入れた人数で回答がありました。記載された人数のままに回答を集計した結果が、「図表4」の内訳です。



図表3　受け入れた教職員数　※記述回答58について



図表4　受け入れた児童・生徒数　※記述回答165について

c　疎開期間

疎開期間を尋ねて、回答があったものをまとめた表が「図表5」です。

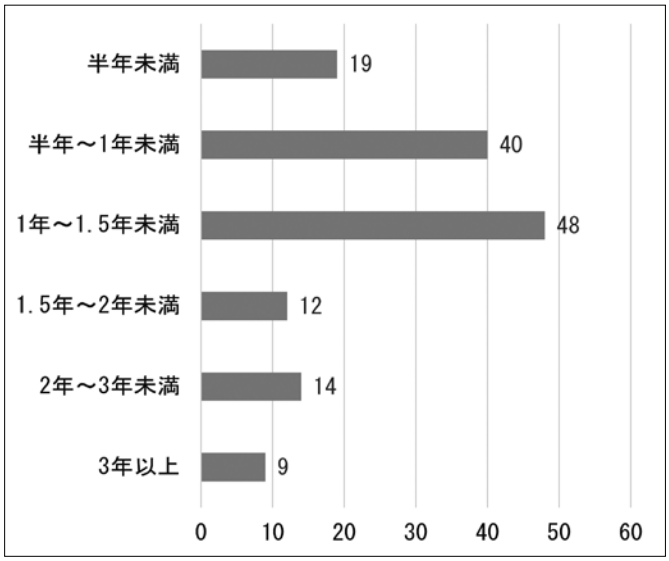
「3年以上」疎開が続いたケースでは、疎開児童のなかに疎開中に戦災で孤児となった児童がいて、戦争が終わっても疎開が続いたと回答されました。

d　疎開児童の世話で大変だったこと

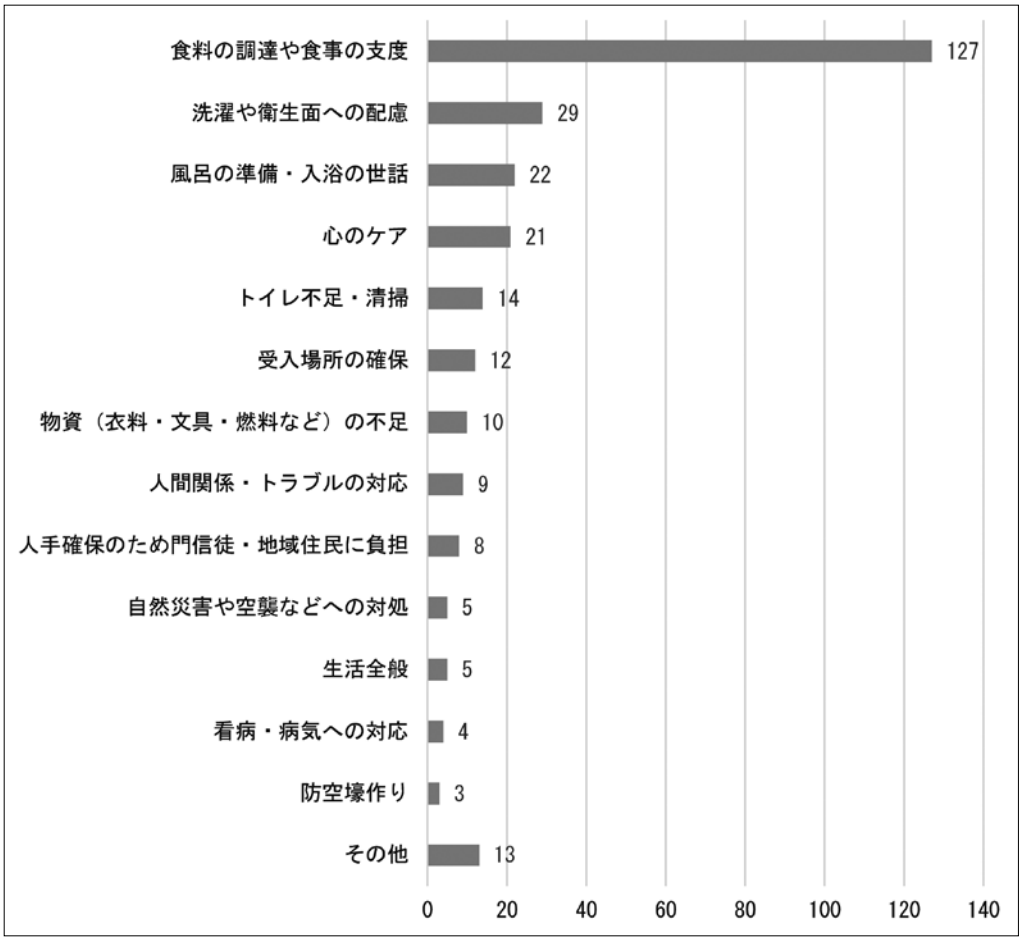
「疎開児童の世話をするなかで、一番大変だったのはなんだったと言われてい

ますか。具体的にお教えください」と尋ねました。回答は「図表６」のとおりです。

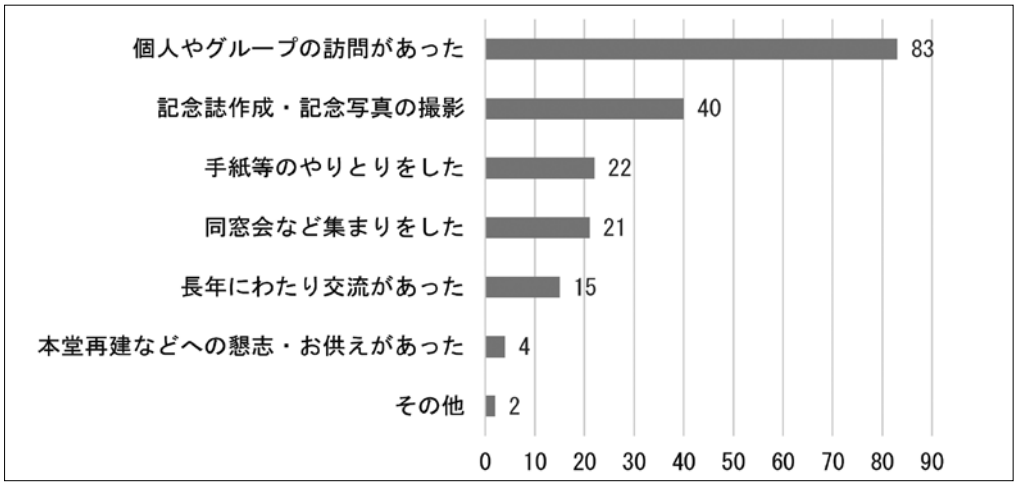
「大変だった」という記述ではさまざまな回答があり、なかでも戦時中も戦後も食糧難のなか、「食料の調達」や「食事の支度」が大変だったという回答が圧倒的に多く記述されていました。



図表５　疎開期間　※記述回答142について



図表６　疎開児童の世話で大変だったこと　※記述回答178について（複数回答）



図表７　疎開校・疎開児童との戦後の交流　※記述回答137について（複数回答）

「その他」は、「子どもが次々と入れかわり、お世話が難しかった」あるいは「戦後も近隣の各寺院で分散教育が暫く続いた」などの回答です。

e　疎開校・疎開児童との戦後の交流

「疎開校・疎開児童とは戦後も交流がありましたか。疎開の想い出にふれた文集・パンフレットが作られていませんか」と尋ねましたら、「図表７」のような回答でした。

ここでの回答では、「西之表市、伊佐市は戦後姉妹都市として今でも交流している」あるいは「疎開校で使った疎開当時のものを平和資料館に寄贈した」という記述がありました。これらは、「その他」で集計しました。

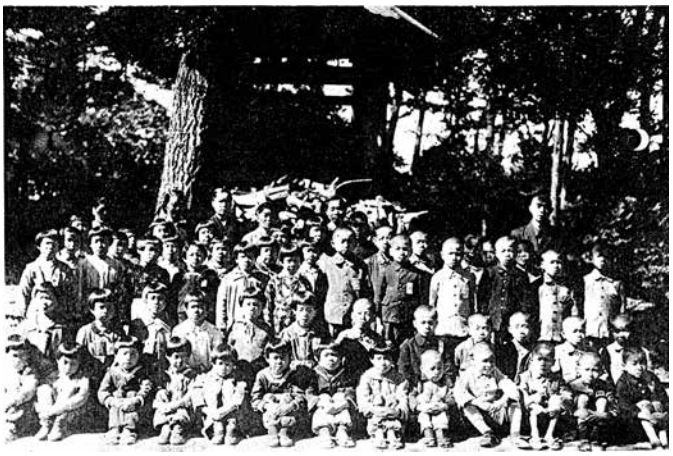
2、「集団疎開」学童受け入れ寺院の資料紹介

提供していただいた資料のなかから、次に３か寺の写真・資料を紹介させていただきます。

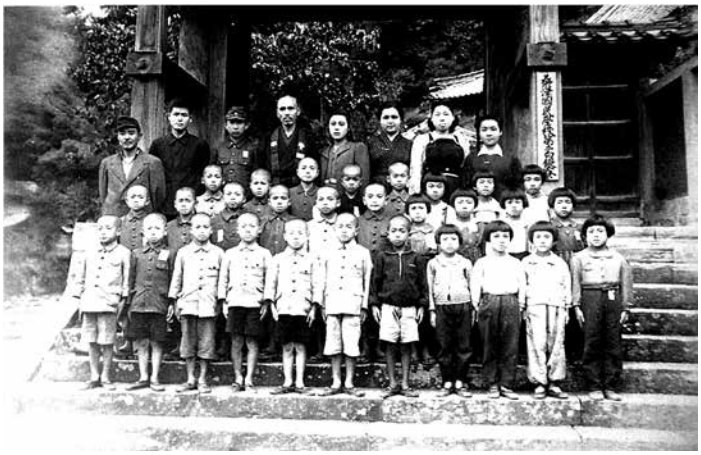
(1) 大阪の「集団疎開」学童受け入れ（石川教区寺院の場合）

石川教区鹿島組明泉寺（住職・櫻井瑞彦師）から、ご提供いただいた写真（資料１）には、１９４５（昭和20）年６月頃の守口市滝井国民学校疎開児童（写真後列右端が住職）が写っています。

児童62名と教員４名は同年５月から10



資料１「大阪府守口市の滝井小学校の疎開学童たち」（明泉寺提供）



資料２　「桑津国民学校第二白銀寮」山門前での集合写真（西性寺提供）

京書籍、２０１１年）で紹介されています。

同寺院では、１９９５（平成７）年11月に「疎開学童五十周年歓迎の集い」が開催されて、元疎開学童と地元の人との交流を賑やかにおこないました（『宗報』２０２０年８月号に掲載）。

⑵大阪の「集団疎開」学童受け入れ（山陰教区寺院の場合）

山陰教区大田中組西性寺（住職・龍善暢師）から、ご提供いただいた写真（資料２）では、同寺院で疎開生活を送った大阪市桑津小学校の疎開児童たちが「桑津国民学校第二白銀寮」の看板が掛った山門前に集合しています（写真後列布袍姿が前々住職、左隣は現住職の父）。

１９４５（昭和20）年５月25日から11月15日まで児童31名のうち、１名は疎開期間中に亡くなりました。終戦後に帰阪した際に大阪駅に出迎えた親は、やせて帰阪した子どもを見て、声をあげて泣いて抱きしめた、と伝えられています。

今回の宗門調査で、大阪市の疎開児童は大阪府内寺院の受け入れがもっとも多かったのですが、石川県や島根県など日本各地の寺院が多く受け入れたことも回答されました。

⑶沖縄の「集団疎開」学童受け入れ（熊本教区寺院の場合）

熊本教区阿蘇組正教寺（住職・山村匡亮師）からご提供いただいた手記では、同寺院で疎開生活を送った沖縄の子どもたちの様子を知ることができます。

「初めて見たその年の初雪に大喜びで、持参していた（沖縄から）砂糖をかけて食し多数『セキリ』にかかり大がかりな消毒があったり大変だったそうです。幸いにも死者は出なかったそうです」「（終戦五十年の頃、寺院を再訪した元疎開学童から）私が直接聞いた話では、『沖縄に帰ったら毎日毎日亡くなった人のお骨拾いが続き、それが仕事だった。疎開できて命がたすかり、感謝しています』でした」

月まで、同寺院で疎開生活を送りました。「勉強は、お寺の本堂を学年ごとにしきってしました」「大阪にいる親がこいしくて、夜中、お寺をぬけだし、駅に向かっていた姉と弟を見つけ、お寺につれて帰りました」といった疎開生活の様子が『どうとく４　ゆたかな心で　石川県版』（東

（同寺院前坊守・山村敏子さん記）

沖縄県の「集団疎開」学童を受け入れたのは、熊本県と宮崎県が同じくらいに多く、2県で5千人あまりにのぼりました（逸見勝亮監修・解説『写真・絵画集成学童疎開』日本図書センター、2003年など参照）。

今回の宗門調査では、熊本教区寺院の多くが沖縄からの「集団疎開」学童受け入れ先でした。

戦時調査室では、引き続き寺院の「戦争と平和」に関わる記録資料を蒐集しております。記録資料とは、具体的には寺院の戦争被災前の写真・被災後の写真、公式の被災記録・証明書、新聞記事、県市町村史記事などです。

調査は「戦争と平和の問題」という視点から各寺院の歴史的事実を記録にとどめることを目的にしており、『宗報』では2020年8月号から（10月号を除く）2021年今号8月号まで調査票回答集計及び、ご提供いただきました寺院記録資料をご紹介させていただきました。

ご報告・ご紹介の多くがまだできておらず、今後は「宗門寺院と戦争・平和展」（今年11月20日～12月8日、京都西本願寺で開催予定）展示資料としてできるだけ多くの寺院事例をご紹介し、その後、調査のとりまとめをさせていただきます。

新たな情報（追加・修正情報など）、写真・資料は、戦時調査室までお寄せください。

資料紹介事例の寺院

（戦時被災等調査委員会委員・新田光子
戦時被災等調査委員会委員・坂原英見
調査研究員・渡辺慶子
調査研究員・牛島悠紀）

資料のご提供先・お問い合わせ先

【戦時調査室】

開室時間：火・水・木 10時～12時、13時～16時（宗務所休日は除く）
〒600-8349
京都市下京区堺町92
浄土真宗本願寺派総合研究所内
「戦時調査室」
Tel/075-354-5087
Fax/075-354-5360
Mail/senji-chousa@hongwanji.or.jp